

刻む会

たより

NO. 5

31.12.28

長生炭鉱の「水非常」を

歴史に刻む会

(代表 山口 武信)

宇部市鍋倉町2-2(澄田方)

☎0836・21・8238

宇部市役所

銘板設置許可をしる

私達は、長生炭鉱「水非常」

現場のコンクリート堤防に金属製の銘板をはめ込むこと、或いは、堤防道路わきに碑を建立することのいずれかを許可して欲しい、と宇部市に要望してきましたが、その返事がきました(次頁参照)。ところが、私達は、既存の「殉難者の碑」を建てた人々との「調整」をお願いしている訳でもないのに、ご覧の通りの回答内容でありますので、その真意をただすために、去る十二月二十四日、山口代表ら八名が港湾土木課長らと会談しま

した。

その結果、判ったことは次の通りです。①市としては、既存の碑のあるところに、私達が計画している碑乃至銘板を設置することをねがって、既存の碑の建立事務局長の井上正人氏と会い、私達の会との「調整」をはかったが、考え方が色々あるようで、これ以上行政としては介入したくない。②用地買収のもつれから(所有者は長生炭鉱経営者頼專家)現在道路工事が中断しており、我々の碑乃至銘板を設置させて相手の心証を害し

て、これ以上工事を難航させたくない。③防潮堤に銘板を取りつけることは宇部市の一存では決められない。県や国に答申する必要がある。④道路の路側に設置することは、用地買収が難航している現状では難しい。

以上の回答に対して、①私達はこれまで、井上正人氏とも話し合ったが、彼らは、日本の朝鮮植民地支配とそれによって生じた「強制連行」を謝罪する意思がなく、既存の碑の横に我々の碑乃至銘板を設置させてくれないこと、②近く我々の考えている銘板の寸法と文案を提出するので、防潮堤に取りつけられるように県や国と交渉して欲しい、と言ってきました。

今回の交渉で明確になったことは、事故現場に碑ではなく、「謝罪」の文言と犠牲者の氏名を列記した金属板を取りつけさせるよう宇部市に働きかけることが、私達のねがいを実現させ

長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会
代表者 山口 武信 殿

宇部市長 中 村 勝 人
(広報広聴課 担当)

平素から市政について、御協力を感じます。
10月17日 要望 を受けました長生炭鉱遺難者(朝鮮人殉難者)に
ついて、下記のとおりお答えしますので、御了承ください。

記

御要望の長生炭鉱水没事故について一部外国人に対する謝罪を含めた文言板と事故犠牲者の氏名を刻んだ銘板の設置について宇部市が施行している漁港関連道路の路側にお願いしたいとのことですが、このことにつきまして本年7月24日付で回答しました様に事故現場の最寄り付近に建立しておりました殉難者の碑があり、設置場所としては妥当と思われるもので、碑建立の関係者と協議しましたが、考え方が色々ありまして、これ以上、行政としての調整は困難と思っております。御理解をお願いいたします。

る現実的な方策だと思えます。皆さんのご意見をお聴きしたいです。
在韓ご遺族からの返信

ところで、十月末に発送しました在韓ご遺族からの返信は十七通ありました。「受取人不明」で戻ってきたのが五十五通。発送したのが大韓国内、百十二通でしたから半分以上が戻ってきたことになります。事故発生から五十年の歳月の重みと、朝鮮戦争による混乱を思われます。

「受取人不明」が戻ってくる最中、三頁掲載の洪性淳さんからの手紙は、私達を励ましてくれました。事務局では、この洪さんを韓国からお招きして、来年の二月二日「水非常」発生満五十周年記念集会をしよう、と計画しましたが、洪さんとの交渉が遅れたことや韓国でのお正月とぶつかって実現しませんでした。しかし、いずれ宇部に来て頂く予定です。

(澄田 記)

在韓遺族

洪性淳さんからの返信

“水非常”を歴史に刻む会の代表および事務局のみなさまに感謝申し上げます。私は^{（水非常）}朴光煥さんの手紙によって貴会のことを知りました。

91.11.6 澄田さんにお電話をいたしました大韓民国に住んでいる洪性淳です。

私の父も長生炭鉱で働いているときに朴光煥さんとともに亡くなりました。そちらに父の名はないのでしょうか。私には知らせがなかったので、こちらからご連絡いたしました。もういちど確認いただいてから、ご連絡をいただきたいと思います。

私の父の住所【本籍】は慶尙北道軍威郡古老面陽地洞365番地で、名は洪相火です。

私は父が亡くなった当時ニシカワ【西岐波】国民学校の5年生で、担任の先生はイマイタカオ、床波駅の裏側に住んでいらっしたと思います。

あの当時、長生炭鉱で亡くなったかたは300余名にのぼったと聞いています。

私たちは父が亡くなって生活が苦しくなったため、母が私と弟（妹）をつれて帰国しました。

ここに、入会申し込み書と年会費を同封しました。

本会の事業推進に積極的に力を注いでいただき、水中にいる菜籃に少しでも満足してもらえればと思います。

本事業の落成式の時招請状を送っていただければ、参加したいと思います。

本会のご発展をお祈りするとともに、私の父に関することをもういちど確認いただいてご連絡をいただきたいと思います。

草々

1991.11.9

洪性淳

～碑文 第3次原案～

一九四二年二月三日早朝、ここ西岐波の浜辺にあつた長生炭鉱で“水非常”（水没事故）が起き、百八十三名もの人々が生きながら、抗道に閉じ込められてしまいました。

太平洋戦争に突入した日本は、国策として、危険な海底炭鉱にも石炭の増産を強く押しすすめたのです。

犠牲者のうち百三十数名は、日本の朝鮮植民地政策のために、土地・財産などを失い生計がたたなくなつて、やむなく日本に仕事を求めて渡つて来たり、あるいは労働力として強制的に連行されてきた朝鮮人だったのです。

また、日本人四十数名も、多くの戦災者と同様、戦時中の混乱の中でかえりみられませんでした。

無念の死を遂げ、今もなお目の前の二本のピーヤの底深く眠っている人々にたいし、つつしんで哀悼の意を捧げます。

とりわけ、朝鮮人とその遺族にたいしては、日本人として心からおわびいたします。

私たちは、このような悲劇を生んだ日本の歴史を反省し、再び他民族を踏みつけにするような暴虐な権力の出現を許さないために、力の限り尽くすことを誓い、ここに犠牲者の名を刻みます。

一九九二年二月二日

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

〔犠牲者氏名列記〕

（注）日本名の朝鮮人については、日本政府が一九三九年全朝鮮人にたいして本名を奪い日本名を押しつけたため、調査のかいもなく、本名が確定できない方がです。

掌合に眠る父に

42年ぶりに韓国人遺族

長生炭鉱

昭和十七年二月、宇部市西陵波の長生炭鉱の海底で非業の墜落を遂げた犠牲者の遺族で、在日韓国人の李元宰さん（宇部市南区東九条柳町下止）が九日、ヒ

ーヤ（非氣坑）の墓より事故現場を訪れ、父の眠る海に慰霊の祭とうをささげた。

長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会（山口県信代表、七十二人）が当時の経緯などを探るため十月末に、残された朝鮮人犠牲者の名前などを手掛かりにハングル文字に訳した百三十三通の手紙を本園の遺族に出し、十連の送答が同会に送られた。李さんその一人で、京都から四十二年ぶりに、父親の墓前に手を合わせたいと申し入れがあり、実現した。

李さんの父・康臣さんは、福岡県内の炭鉱から長生炭鉱の労働条件改善のため昭和十六年十月に宇部市に来て事故に遭った。当時、長生炭鉱の労働条件は、全国的に見ても最悪といわれており、康臣さんは、少しでも環境をよくしようと運動を起す途中だった。

父親とともに宇部市に田稼ぎに来ていた元宰さん

は、昭和十七年二月三日午前六時、宇部巖瀬工場の夜勤労働中に事故の知らせを受けた。急いで電車に乗り込み現場に行くところ、ぼろりと立ちすくむ人や号泣する人へ辺りは、異常な鬱陶気に包まれていたという。「事故後、約六年間市内で生活していたが、どうして父の眠る海へ祭とうをささげる李さん（西陵波の旧長生炭鉱で）」

も現場に近づこうとできなかった」と元宰さん。「遺族としては位牌（はい）がある場所や墓場を園から何も知らされなかった。歴史を刻む会が園に代わって私を父に会わせてくれたと何度も涙をぬぐいながらヒーヤを眺めていた。また、この日は日本人の位牌が納められている西陵波向坂の西光寺（佐々木蘭庵住職）にも足を運び、位牌に手を合わせた。



《 《 《 事務局から 》 》 》

上掲京都の李元宰さんという強い味方が現れました。今度は子や孫も連れて来る、と言って帰られました。◆東京の明石書店から刻む会編『長生炭鉱と朝鮮人強制連行』（仮題）が来年七月を目標に出版されます。主な執筆者は山口武信、布引宏両氏ですが、私達も協力しましょう。一月十三日（月）夜七時から宇部総合福祉会館での一月例会でその内容骨子を報告します。ご意見をお聴かせ下さい◆この一月例会では、「銘板」の寸法や文言（三頁参照）及び殉職者氏名一覧を発表できると思います◆刻む会設立当初は、来年の二月三日満五十周年には「碑」の建立を、と気負っていましたが、実現できませんでした。しかし、考えようによっては、長引くこともまた、日本人の精神構造変革のためには必要なことでしょう◆二月二日（日）午後二時より長生自治会館で満五十周年記念集会。多数ご参加を！